

田中 逸夫 教授

【応用生物科学部】

9月1日付けで室員に任命され
出前講義を担当することになりまし
た。よろしくお願いいたします。

私は産休明け保育所の運営や大学認可保育所の父母会
活動を通じて保育所支援活動に長年参加した経験がありま
す。今考えるとこの活動も男女共同参画の活動だったのかな
と思います。共働き生活と育児では妻に大変迷惑をかけてき
ましたので、この任務を通じて罪滅ぼしと意識改革をしたい
と思います。さて、私の担当である出前講義の趣旨について紹
介したいと思います。この企画は、いわゆる“リケジョ”を増や
すことを狙ったものです。わが国では特に理工系の女子学生
と女性研究者が少ない現状です。この原因が“女性は理工系
に向かない”からだとはとても思えません。私は、これまでの
“慣習や偏見”そしてなによりも男女共同参画の取組みが遅
れていることが大きな原因ではないかと思っています。そこで、女
性研究者の卵とも言うべき女子大学院生に小中高に出向い
て貰って理工系研究のおもしろさや女性研
究者の活躍を紹介して貰うという企画です。
私は、教育研究機関である大学がこのよ
うな出前講義を実施することは大いに意義が
あると考えています。

皆様のご理解とご協力をお願いします。



青木 正人 教授

【工学部】

告白しますと、9月に室員となる
まで、男女共同参画社会や女性研
究者支援について自分の問題とは

思っていませんでした。字面の違和感もありました。例えば、
男女のうち一方に偏った研究者支援がなぜ男女共同参画
推進なのか。基本的人権を保障する法制下において、研究者
への道を選ぶかどうかは個人の自由選択であるし、大学の人
事では性別には中立に適任者を選考しているはず。違反があ
るなら正せばよい、そう思っていました。7月の「キックオフフ
ォラム」で図表を示されてもなお腑に落ちない。そんなときに
室員のお話を頂きました。それは「現実をよく見なさい」という
運命の女神からのささやきだったのかもしれない。

9月から月2回の推進室会議に出席し、子育てと就労の両
立を支援する活動や学外の状況などを初めて知りました。次
第に、男女参画問題の最も身近な例は「わが家」だと気づきま
した。妻は現在も専門職を続けていますが、離職・パート勤務
などして子育てという大仕事に要する時間の大部分を引き受
けてくれました。職業での自己実現を考えれば捨てる身の譲歩
です。私が逆の立場ならどうだったか...

たとえ法的に平等でも、家庭での役割分担のあり方と、そこ
に配慮した職場・社会の支援とをみんなが考えることなしに、
男女共同参画社会はありえないといま実感しています。

学内保育園「すこやか」
「ほほえみ」園児の

Halloween

平成22年10月29日(金) 学内保育園「すこやか」「ほほえみ」に通う園児21名はハロウィンにちなみ、各々仮装をして、
学長室、男女共同参画推進室、総務部などを訪問しました。園児たちは、自作のカゴいっぱいにお菓子ももらい、嬉しそ
うでした。また、訪問を受けた学長をはじめ職員も園児の可愛さにホッと一息、癒されました



岐阜大学男女共同参画推進室 (人事労務課男女共同参画係)

〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1 Tel:058-293-3378 Fax:058-293-3396 E-mail:sankaku@gifu-u.ac.jp

* 男女共同参画に関するご意見・ご要望は男女共同参画推進室へお願いします。



~ NEWS Letter ~ 5号 2010.11

岐阜大学男女共同参画宣言・行動計画が制定されました。

岐阜大学は、第2期中期計画「組織運営の改善に関する目標を達成するための措置」の項目に、「男女
共同参画計画を策定し、全学的に男女共同参画を計画的に推進する」ことを謳いました。その一環として、
目下、平成22年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業での取り組みを
進めるとともに、男性女性に関わらず全構成員のワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の改善を図
り、全学を挙げての男女共同参画の実現をめざしています。その目標に向かって、この度、「岐阜大学男
女共同参画宣言」をおこないました。今後6年間の「岐阜大学男女共同参画行動計画」を策定するにあ
たり、数々のご助言をいただきました方々に、心よりお礼申し上げます。活かしきれなかったご意見につま
ましては、今後の実践活動のなかで実現・改善に努めてまいります。今後とも、ご支援、ご協力のほど、ど
うぞよろしくお願いいたします。

岐阜大学男女共同参画推進室長

林 正子

* 宣言・行動計画は、P2に載っています。中面をご覧ください。

目次

男女共同参画宣言・行動計画が 制定されました。	P1
岐阜シンポジウム開催のお知らせ	P1
研究補助員の配置を希望する女性 研究者の募集について	P1
第2回カモミール・キャリアアップ・ カフェのお知らせ	P1
男女共同参画宣言・行動計画	P2
FDを実施しました。	P3
女性医師就労支援の会「学童保育 を考えよう」を開催しました。	P3
室員紹介 vol.4	P4
園児 Halloween	P4

第20回 岐阜シンポジウム開催のお知らせ

「岐阜大学発 男女共同参画社会の実現をめざして
- 企業の成功例に学ぶ -」

日 時：平成22年12月11日(土) 13:30~16:30
場 所：岐阜大学講堂

【基調講演】

演題：「女性管理職の養成とダイバーシティマネジメント」
講師：帝人ケイティブスタッフ株式会社人財部ダイバーシティ推進室長
黒瀬 友佳子 氏

【岐阜県内の企業の取組報告】

未来工業株式会社
株式会社市川工務店

どなたでも
参加できます。

【岐阜大学男女共同参画推進事業の紹介】

三宅 恵子 岐阜大学男女共同参画推進室特任准教授

【パネルディスカッション】- 男女共同参画社会の実現をめざして -

コーディネーター 林 正子 岐阜大学副学長
岐阜大学男女共同参画推進室長
パネリスト 箕輪 照子 岐阜県環境生活部
男女参画青少年課長
阪本 誠 未来工業株式会社総務部総務課長
清島 真理子 岐阜大学医学系研究科教授
女性医師就労支援の会代表

主催：岐阜大学 後援：岐阜県、岐阜市

* 託児室有り(無料)

託児希望の方は12月3日(金)までに男女共同参画推進室まで
お申し込みください。

研究補助員の配置を希望する女性研究者の募集について

この募集は、文部科学省の平成22年度科学技術振興
調整費「女性研究者支援モデル育成」事業において、本
学が提案した「多様性活力発揮に向けての女性研究者支
援」が採択されたことにより、女性研究者の両立支援の一
環として、出産・育児・介護により研究時間の確保が困難
な研究者へ実験や講義の準備等を補助する者を配置し、
育児等と研究との両立を支援する目的で行うものです。

【制度の概要】

育児等により研究時間の確保が困難な女性研究者を対
象に、研究データ解析、学会発表資料作成、実験補助、
文献調査、統計処理等の研究補助業務を行う研究補助
員を配置し、研究継続を支援するものです。

【申請受付期間】

平成22年11月8日(月)~12月3日(金)必着

関心のある方はご相談にも応じますので、男女共同参
画推進室にお問い合わせください。

第2回カモミール・キャリアアップ・カフェ ~ ロールモデル(活躍している研究者)に学ぼう ~

日時：11月26日(金) 14:00-15:00(予定)
場所：カモミール・カフェ (看護学科新棟5階)
講師：花房 泰子 氏(専門分野：獣医感染症)
(独)農業・食品産業技術総合研究機構 主任研究員

* ご自身のキャリアアップに興味のある方、
お気軽にご参加ください。

岐阜大学男女共同参画宣言

平成 22 年 10 月 21 日
教育研究評議会、役員会承認

【基本理念】

岐阜大学は、性別に関わりなく個性を尊重し能力を発揮できる男女共同参画社会の実現に向けて、積極的な取り組みを推進することを、ここに宣言します。

男女共同参画社会とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」(男女共同参画社会基本法)と規定されています。

岐阜大学は、男女共同参画社会を実現するために、次のような基本方針を提唱し、積極的に活動します。

【基本方針】

- 1 男女共同参画の視点に立った教育・研究環境及び就業体制の確立
- 2 教育・研究及び就業と家庭生活との両立を図るための支援
- 3 女性研究者の支援及び育成の推進
- 4 教職員・学生への男女共同参画に関する啓発活動の推進
- 5 大学運営における意思決定への女性参画の推進
- 6 国・岐阜県・各市町村、企業等諸団体との連携の促進

岐阜大学男女共同参画行動計画

- 1 **男女共同参画の視点に立った教育・研究環境及び就業体制の確立**
 - ・多様な人財活用推進委員会と男女共同参画推進室の連携により男女共に活躍できる環境及び体制作りに積極的に取り組む。
 - ・男女共同参画推進に関する提案を受ける窓口を設置し、運用する。
- 2 **教育・研究及び就業と家庭生活との両立を図るための支援**
 - ・時間外労働の縮減と年次有給休暇の取得を促進する。
 - ・育児・介護休業、短時間勤務制度等の利用を促進する。
 - ・学外からも大学の情報入手や研究推進ができるよう、インターネットを活用したシステムを整備する。
 - ・学内保育園について円滑な運営を進め、教職員・学生がより利用しやすい環境を整備する。
 - ・学童保育・病児保育の充実を目指した保育サービスを整備する。
 - ・育児・介護の相談窓口を設置し、運用する。
- 3 **女性研究者の支援及び育成の推進**
 - ・男女共同参画支援コンシェルジュにより女性研究者の支援を行う。
 - ・女性研究者と女子学生の交流促進の場として「カモミール・カフェ」を設置し、運用する。
 - ・就業環境改善のための休憩室を整備する。
 - ・出産・育児・介護に関わる女性研究者の研究継続が可能となる研究支援者を配置する。
 - ・女性研究者及び女子学生を対象とするメンター制度を充実させる。
 - ・女子大学院生による小中高等学校への出前講義(「サイエンス夢追い人」育成プロジェクト)を実施する。
- 4 **教職員・学生への男女共同参画に関する啓発活動の推進**
 - ・男女共同参画に関するセミナー・シンポジウムを開催する。
 - ・教職員対象にFD・SDを実施する。
 - ・人権学習・ジェンダー研究関連授業を充実させる。
 - ・男女共同参画に関するアンケート調査を実施する。
- 5 **大学運営における意思決定への女性参画の推進**
 - ・ポジティブアクションを積極的に取り入れ、女性教員の比率向上を目指す。
 - ・女性管理職の比率向上を目指す。
- 6 **国・岐阜県・各市町村、企業等諸団体との連携の促進**
 - ・男女共同参画に関して諸団体とネットワークを築き、連携を図る。
 - ・岐阜労働局、NPO、日本女性科学者の会、岐阜県医師会等との協働により再チャレンジ支援を行う。
 - ・ネットワーク大学コンソーシアム岐阜等の公開市民講座を開催する。

男女共同参画推進室・工学部共催

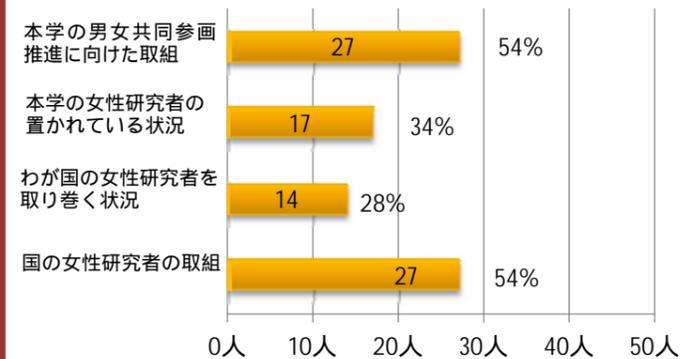
FDを実施しました。

平成 22 年 10 月 13 日(水)に工学部第 1 会議室にて、男女共同参画推進室・工学部共催による FD「岐阜大学における男女共同参画の推進に向けて」を開催し、58 名の参加がありました。

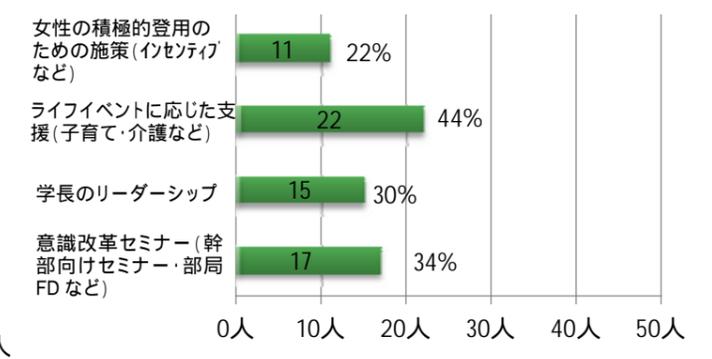
男女共同参画推進室長の林副学長より、「岐阜大学における男女共同参画の現状」「科学技術振興調整費による女性研究者支援モデル育成事業」について説明があった後、男女共同参画推進室の三宅特任准教授より、「第三期科学技術基本計画/科学技術分野における女性の活躍促進施策」「岐阜大学男女共同参画推進室の取り組み」について説明がありました。

最後に出席者の皆さまにアンケートにご協力頂きましたので、いくつかご紹介いたします。

この FD により理解が深まった項目



岐阜大学において男女共同参画の推進に必要と思う項目



* アンケート回答人数: 50 名 (複数回答可)

その他 ご意見・ご希望など

- ・工学部内でも学科により女子学生の数は異なり、それに依りて対策も違ってくる。
- ・工学部へ入学を希望する女子学生「リケジョ」を増やす取り組みが必要。(小中高への工学のアピール・理科教育の改善など)
- ・若手研究者に両立をうたうのは当然だが、その結果として年長者がそれをカバーするのも限界がある。ムダな事務仕事を省いてほしい。男女に関係なく待遇が良くなれば、女性の志望者も増えるのでは。
- ・全国有名企業における女性採用状況を知りたい。
- ・女性研究者の生の声を聞きたい。
- ・勤務地に関わる議論をしてほしい。

今後のスケジュール

応用生物科学部: 11月17日(水)13時より

応用生物科学部第1会議室にて

医学部: 1月19日(水)15時より

教育学部・地域科学部: 日程調整中

多くの方のご参加をお願いします。

女性医師就労支援の会「学童保育を考えよう」を開催しました。

平成22年11月4日(木)第3回 岐阜大学女性医師就労支援の会「学童保育を考えよう」が、岐阜大学医学部大会議室にて開催されました。

第3回は「学童保育」を取り上げ、「小1の壁」を親子ともに乗り切る方策について考えました。

NPO 法人グッドライフ・サポートセンターの中島由紀子氏は、「信頼と感謝でつなぐ支援の輪」をテーマに、依頼会員(介護・育児の援助を受けたい人)と提供会員(介護・育児の援助を行いたい人)を上手くマッチングさせてお互いの生活を支えあうセンターの仕組みや、依頼会員に対して提供会員の少ない現状課題などを語っていただきました。

NPO 法人ウィッシュサポート代表で内科医の谷本真由実先生の講演では、「子育てをしている中、「こんな施設があったらいいな」と思ったものを誰かが作ってくれるのを待たず、自分で作ってしまいました」という言葉が印象的でした。

地域医療医学センターの奥村陽子先生からはご自身の体験から「ネコの手、パパの手、ママの手を使おう」や、学童保育や病児保育を行っている施設をいくつか実際に利用してみて気が付いた長所や短所をご紹介くださいました。

どのお話もご自身の経験からとても身近で、現在、子育てと仕事を両立している人、またこれから両立をはじめる人にとって、大変参考になる機会となりました。



【中島 由紀子氏】



【谷本 真由実先生】



【奥村 陽子先生】

NPO 法人グッドライフ・サポートセンター
TEL: 058-295-3420
http://www.ip.mirai.ne.jp/~goodlife
NPO 法人ウィッシュサポート
TEL: 058-215-7151
e-mail: npowish@pf6.so-net.ne.jp